

「2026年3月期通期決算説明会」主な質疑応答（要旨）

Q1. 今期のプライシング適正化の方向性と、外部環境の変動に対する価格面での対応について教えてください。

- 法人部門（大口法人）においては、一律の運賃改定ではなく、基本運賃とオプション（集荷時間や仕分け方法等）を分けるなど「契約の精緻化」を進め、提供価値に見合った適正運賃の収受を実施します。
- 宅急便部門（個人・小口法人）については、適正水準の単価を維持しながら、お客様の利便性向上等を通じて、お客様の利用頻度・シェアの拡大を図ります。
- また、中東情勢等による燃料価格の急激な高騰など、外部環境の変動リスクに対しても、持続的に物流ネットワークを維持するため、公的指標に連動して機動的に価格に反映する仕組み（燃料サーチャージ等）の導入について検討を開始しています。

Q2. オペレーティングコスト適正化に向けた今期の取り組みを教えてください。

- データやAIを活用した需要予測に基づくリソース配置の見直しにより、物量変動への対応力を高めるとともに、コストの変動費化・固定費削減を推進します。また、前期より着手していた首都圏での都市部近距離輸送における配車の効率化は、コスト削減効果が発現し始めており、下期より中部・関西へと対象地域を拡大する方針です。
- これらの施策の進捗や実効性をモニタリングするとともに、データに基づくネットワーク最適化と現場の実行力を融合させることで、強靱な収益構造の構築に取り組んでいます。

以上